

大正文学アルバム



土屋 文明 豊島与志雄

宮沢 賢治 牧野 信一

上司 小剣 三上於菟吉

長谷川天溪 長与 善郎

三好 十郎 倉田 百三

松岡 讓 尾崎 喜八

国枝 史郎 佐藤 春夫

有島 生馬 谷崎潤一郎

千家 元麿 木下奎太郎

水上瀧太郎 吉井 勇

小島政二郎 阿部 次郎

長谷川時雨 富田

葛西 善蔵 飯田

長谷川如是閑 暁 烏

神近 市子 坪田

内田 百閒 堀口 信夫
田村 俊子 佐藤惣之助
大杉 栄 萩原井泉水
佐藤 一英 北村 小松
窪田 空穂 山内 義雄
斎藤 茂吉 菊池 寛

阿部 次郎 会津

長谷川時雨 富田

葛西 善蔵 飯田

長谷川如是閑 暁 烏

神近 市子 坪田

大正文学アルバム

新潮日本文学アルバム 別巻

新潮社

紅野敏郎

者

芥川瑠璃子
泉 名月
岩森 亀一
宇田 健
尾崎 秀樹
甲斐 信枝
川端 秀子
北原隆太郎
木下 味子
河野 通明
榊原 和夫
志賀 直吉
鈴木 珊吉
永野 朋子
夏目 純一
長谷川 仁
萩原 葉子

鈴木登美子
宮沢清六
山県富貴子
与謝野 光

岩波書店
神奈川近代文学館

鞍馬寺
形象社

大衆文学研究会
前橋市立図書館
吉川英治記念館

編集協力
日本近代文学館
株式会社木挽社



新潮日本文学アルバム 別巻2
大正文学アルバム

一九八六年十一月二十五日発行
一九八七年三月一〇日二刷

発行者 佐藤亮一

発行所 株式会社 新潮社

東京都新宿区矢来町七一

郵便番号 一六二

電話(業務部) 03-2661-5111

(編集部) 03-2661-5411

振替東京四一八〇八

印刷 大日本印刷株式会社

製本 加藤製本株式会社

定価 一一〇〇円

乱丁・落丁本は、御面倒ですが、小社通信係宛
御送付下さい。送料小社負担にてお取り替え
いたします。

大正文学の起点Ⅰ（「白樺」「三田文学」第二次「新思潮」）	17
大正文学の起点Ⅱ（「創作」「朱槿」「青鞥」）	40
冬の時代（「近代思想」「へちまの花」「生活と芸術」）	50
大正文学の展開（「奇蹟」「仮面」第三次、第四次「新思潮」）	58
明治・大正文学の重層Ⅰ（漱石・鷗外・鏡花・露伴）	68
明治・大正文学の重層Ⅱ（花袋・秋声・白鳥・藤村・泡鳴）	76
大正文学の多様性と達成Ⅰ（小説と評論）	80
大正文学の多様性と達成Ⅱ（詩歌と戯曲）	94
理想の実践（「赤い鳥」「新しき村」「種時く人」）	105
昭和文学への移行（「文芸戦線」「文芸時代」「キング」）	112

＜カラーページ＞

長谷川潔画「幕の女」 石川啄木詩稿ノート「呼子と口笛」

高村光太郎「自画像」 与謝野晶子「百首屏風」

夏目漱石「明暗」原稿 志賀直哉「暗夜行路」草稿

宮沢賢治「自筆水彩画」 萩原朔太郎「くさった蛤」草稿

佐藤春夫画「六甲山」 村山槐多画「島の女」

芥川龍之介「蜘蛛の糸」原稿 中里介山「大菩薩峠」原稿 他

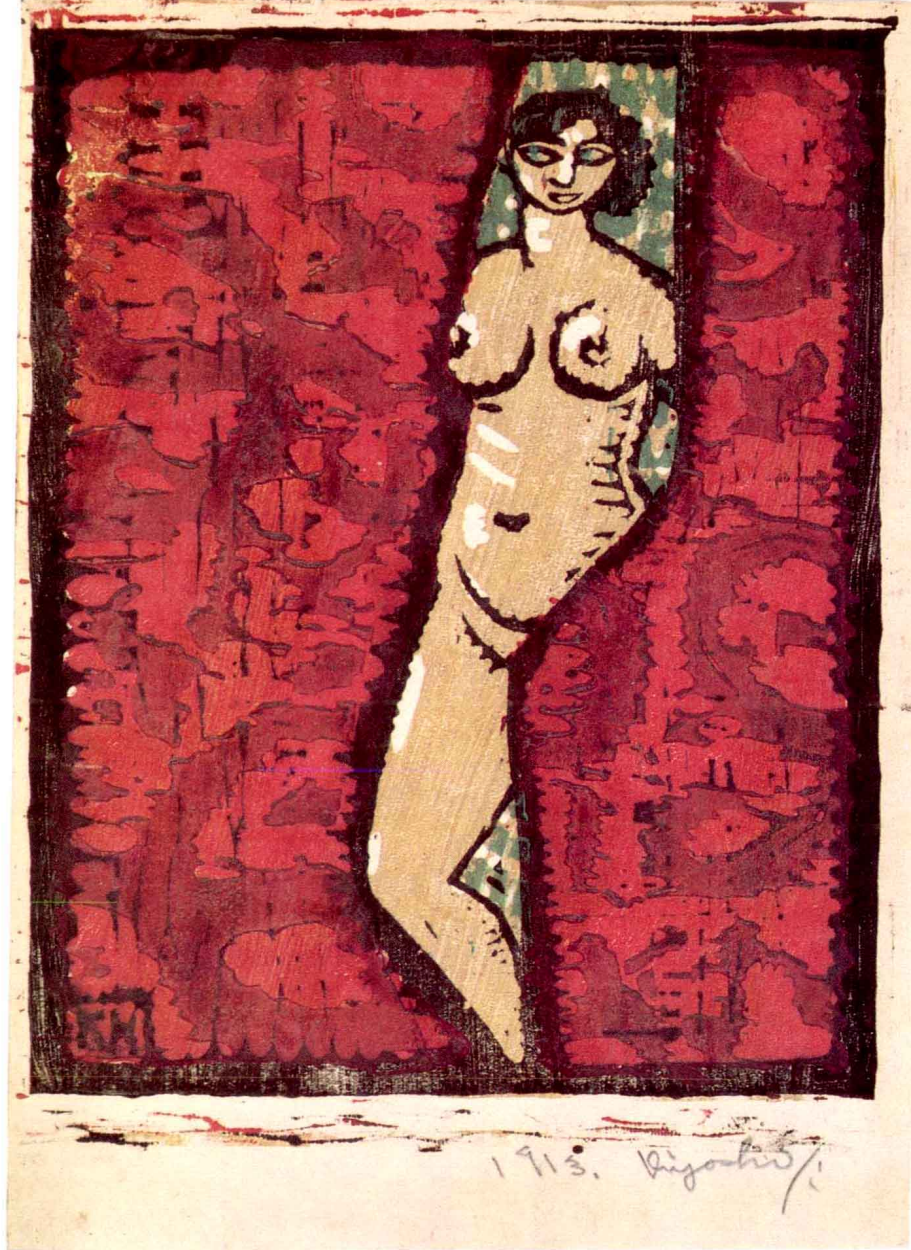
本文（大正文学史）

主要参考文献

年表

紅野敏郎
紅野敏郎
浦西和彦

折込み巻頭口絵「関根正二画」信仰の悲しみ」
カバー装画「畦地梅太郎

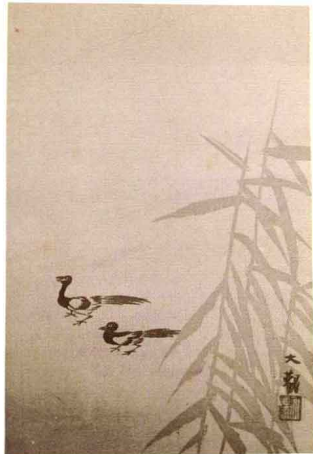


長谷川潔画『幕の女』(大正2年)

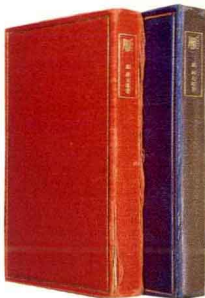
呼子と口笛



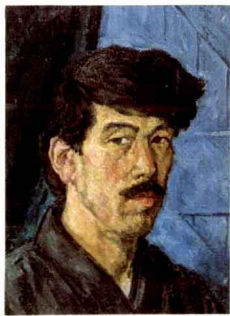
石川啄木詩稿ノート「呼子
と口笛」(明治44年6月)の
自筆扉(左)と口絵



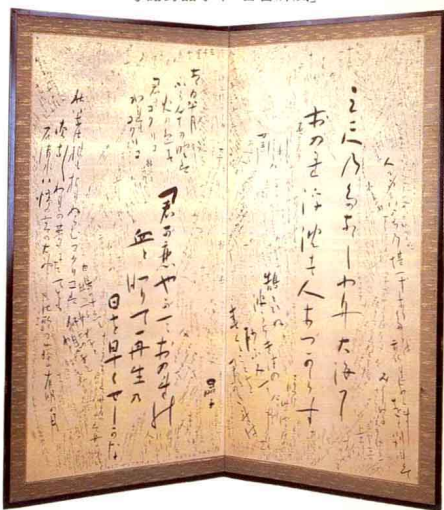
森鷗外『雁』の二種類の単行本「大正
4年」とその口絵(横山大観画)



高村光太郎『自画像』(大正2年)



与謝野晶子筆「百首屏風」

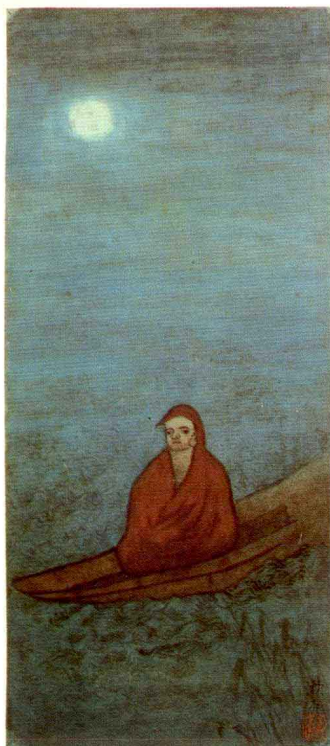


「明星」100号(終巻)表紙原画(和田英作画)





漱石画「達磨図」(大正2年)



夏目漱石「明暗」(大正5年)原稿冒頭

バーナード・リーチ個展(大正8年)ポスター原画



九里四郎画「志賀直哉肖像」(明治44年)



園池公致の「白樺美術会
会員之証」(岸田劉生画)



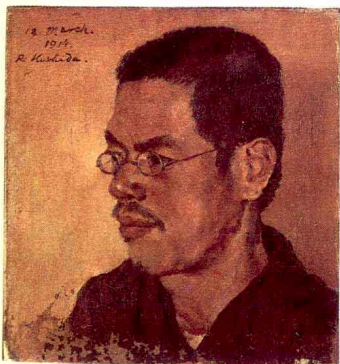
志賀直哉「暗夜行路」草稿冒頭。はじめ「時任謙作」とした
表題の右側に「暗夜行路」と書き、その「暗」を「闇」と書き
なおしたが、その上に新しい原稿用紙を貼りつけ、写真
の如く書きあらためた。原稿用紙貼付の様子がわかる





「白樺」創刊号より終巻号(160冊)まで、さまざまな絵が表紙を飾った。その異なった主要な表紙26冊(明治43年4月～大正12年8月)

→「白樺十周年記念集」岸田劉生原画(大正8年)
 ↳劉生装幀の本。長与善郎「因陀羅之子」・明るい部屋、千家元鷹「青い枝」、武者小路実篤「幸福者」・友情、木下利玄「紅玉」
 ↓劉生画「武者小路実篤」肖像(大正3年)





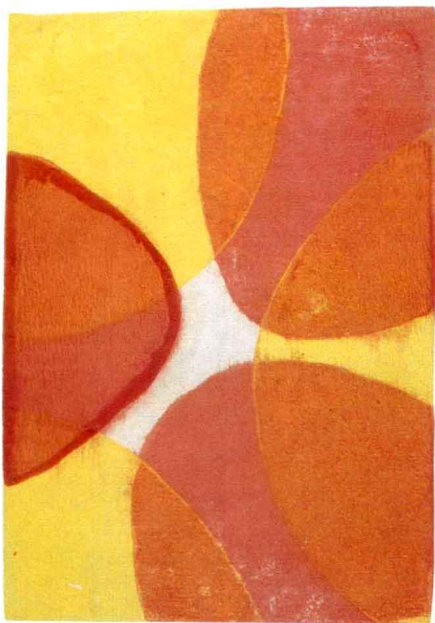
白秋『東京景物詩 及其他』(大正
2年)口絵(木下奎太郎画)



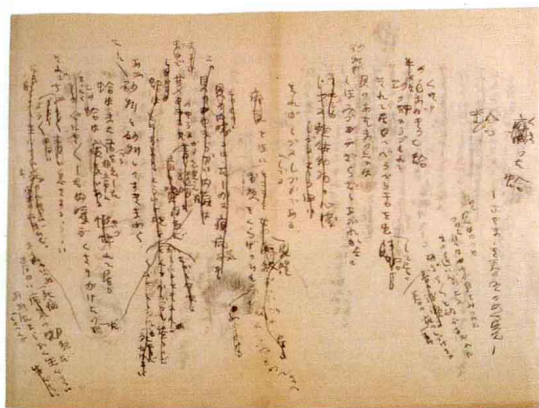
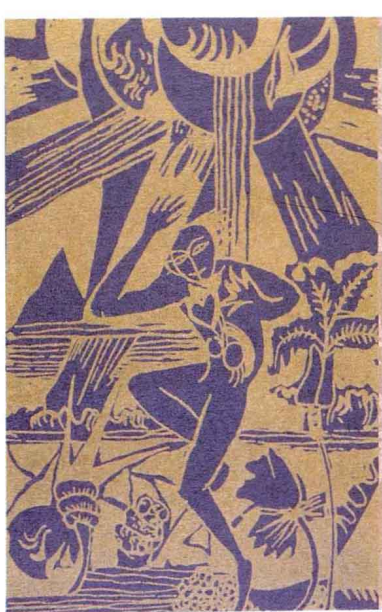
北原白秋『お話 日本の童話』(大正13年)の自筆口絵「柳河」

宮沢賢治自筆の水彩画





萩原朔太郎『月に吠える』(大正6年)挿入画。田中恭吉(画稿より)(右)、思地孝四郎『抒情(よろこびあふれ)』(左)



朔太郎『月に吠える』収録くさつた蛤「草稿」



水島爾保布・武林無想庵・野川白川・山本露葉らが推進した「モザイク」(明治45年5月創刊)の創刊号より4号まで



谷崎潤一郎『人魚の嘆き 魔術師』(大正8年)原稿と口絵(水島爾保布画)



佐藤春夫画「六甲山」





雪見橋

→ 泉鏡花『紅梅集』(大正7年)口絵(鏑木清方画)
 ↑ 鏡花『日本橋』(大正3年)裏見返し(小村雪岱画)



永井荷風自画像(大正11年)



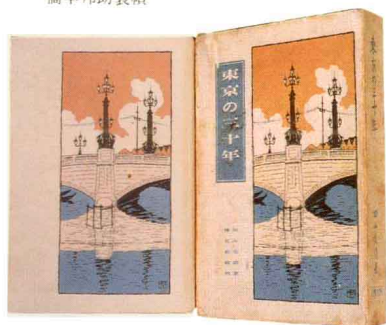


山村暮鳥『聖三棱玻璃』(大正4年) 広川松五郎装幀

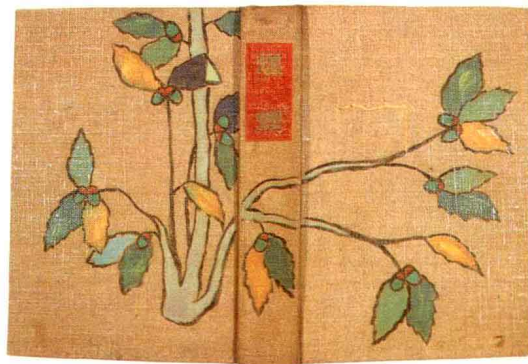
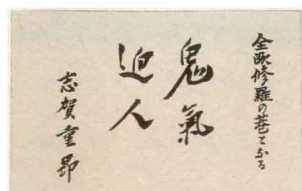


関根正二画「姉弟」(大正7年「関根正二遺作展目録」より)

田山花袋『東京の三十年』(大正6年)
橋本邦助装幀



森田草平『煤煙』(大正3年)特装本(沢枝重雄肉筆油絵)





『槐多の歌へる』の詩人でもあった村山
槐多「大島の水汲み女」(大正5年)

室生犀星『抒情小曲集』(大正7年) 広川松五郎装幀

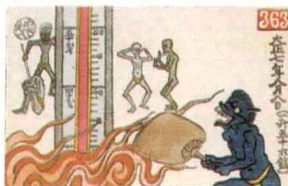


長与善郎『項羽と劉邦』(大正11年)豪華
版の表紙と扉(装幀・挿画=河野通勢)

田村俊子『木乃伊の
口紅』(大正3年)扉



伊東忠太『阿修羅帖』(大正9年)より



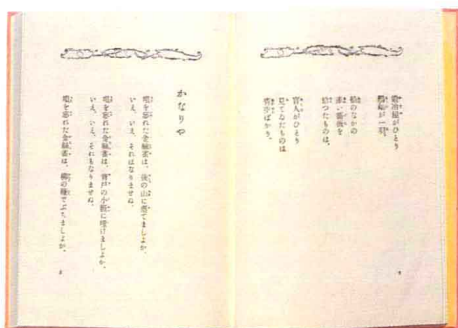


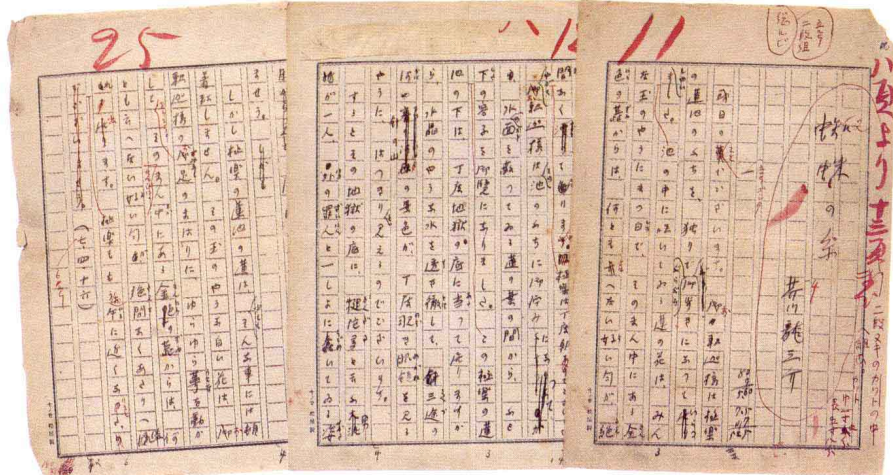
鈴木三重吉「女神の死」原稿冒頭2枚



「赤い鳥」創刊号(大正7年7月)表紙原画(清水良雄画)

西条八十童謡集『鶉と時計』(大正10年)に収載された「かなりや」





芥川龍之介『蜘蛛の糸』原稿。朱文字は、子ども向きに書きなおした三重吉の手

「赤い鳥」(大正13年2月)表紙原画(鈴木淳画)



「赤い鳥」創刊号口絵(清水良雄画)

